

2022年11月19日（日）開催「日本と世界が出会うまち・堺 2023」研究発表会 プログラム

「大阪大学南部陽一郎ホール」「ZOOM」ハイブリット開催

時間割	内 容【各グループの持ち時間20分⇒発表15分以内、質疑応答5分】				
	No	学校	グループ名	人数	テーマ
13:00 ~ 13:10	須藤館長開会のご挨拶、開催に当たっての連絡事項_10分				
13:10 ~ 13:30	1	雲雀丘学園中学校	「竹岡丸」	3	世界にはばたけ！ 堺打刃物
		平安時代末期に誕生し、16世紀後半には南蛮貿易により伝わったタバコの葉を刻むため「タバコ包丁」として重宝された堺打刃物。江戸時代には幕府公認の「堺極」の印により、その名を全国にとどろかせました。現在ではその切れ味や耐久性が認められ、日本だけでなく世界の料理人に愛用されるものとなっているそうです。私たちは、堺打刃物の製造方法の特徴について調べるとともに、世界各地の他の有名な刃物産地（イングランドのシェフィールドやドイツのゾーリンゲンなど）とくらべてどのような違いがあるか、その歴史や地域性などにも注目して比較したいと思います。さらに、フィールドワークで現地を訪問し、刃物づくりの様子を見学、実際に製造している人たちの話を聞き、現在の問題点（後継者不足など？）やこれからの目標などを伺いたいです。			
13:30 ~ 13:50	2	帝塚山学院中学校	歴史研究部 「コフン・ハニワ調査隊」	4	古墳と埴輪
		堺といえば古墳のイメージがあり、古墳や埴輪についての疑問がたくさんあったので、テーマに選びました。古墳から出土したものはどんなものがあるのか、埴輪の種類やなぜ作られたのか、そこから見える当時の人の生活を調べてみたいです。特に堺の大仙陵古墳について、なぜ仁徳天皇のものだったのか、大仙陵古墳から出土している埴輪はどんなものか、周りの小さい古墳はなぜ作られたのか、渡来人とのつながりも考えていきたいと思っています。			
13:50 ~ 14:10	3	帝塚山学院中学校	歴史研究部 「センコウセカイ 堺×世界」	7	堺の線香
		線香の産地として有名な場所といえば京都や奈良などの古都が連想されることが多いですが、堺は日本で初めて線香の製造技術が伝わり、線香が作られた場所です。ですが、現在堺は線香の産地としてあまり知られていないイメージがあります。何故堺は日本で初めて線香の製造技術が伝わったにもかかわらず線香の産地として伝わるのが少なくなったのか、現在堺の線香は日本や世界でどう活用されているのかを研究したいです。			
14:10 ~ 14:30	4	関西大学中部	フィールドワーク部 歴史班	6	バンクーバーに渡った日本人移民
		私たちはバンクーバーに渡った日本人移民の歴史について調べようと思っています。私たちは中部3年次にカナダのバンクーバーへ研修旅行に行くことになっています。それをきっかけにバンクーバーについて調べると、日本人移民が多く渡っていたことを知りました。またその移民の中には、滋賀の近江商人の流れをくむ人々や和歌山の三尾村（現在の美浜町）の漁師たちがいるということが分かってきました。これからは日本人移民の人々がなぜカナダ・バンクーバーへと向かったのか、バンクーバーでどのような活動を行いどのような生活していたのかについてを調べ、差別や排斥を受けた歴史についても明らかにしていこうと考えています。			
14:30 ~ 14:40	休憩及び準備_10分				
14:40 ~ 15:00	5	金蘭千里高等学校	「君知りたまえ」	8	与謝野晶子の満蒙旅行
		小学校と中学校の歴史の授業や、高校1年生のときに受けた歴史総合の授業で、私たちは堺生まれの歌人と謝野晶子を学ぶことができました。一般的に、晶子は日露戦争の際に「君死にたまふことなかれ」という反戦詩を発表したことや、『みだれ髪』で、官能的で熱情的な歌を発表し、日本の文芸界に新たな潮流を生み出したことで知られています。一方で、昭和期の晶子の活動や、思想の変遷については、あまりよく知られていません。私たちは、昭和期の晶子に関する著作を読み、1928年に満鉄の招待で行われた満蒙旅行が晶子の思想の変化と大きく関わっていることを知りました。帰国後に与謝野夫妻の共著で発行された『満蒙遊記』も読み解きながら、晶子の満蒙旅行やその影響について考察してみようと思います。			

15:00 ~ 15:20	6	関西大学高等部	フィールドワーク部 歴史班・鉄道班	9	阪和線はかつて日本最速だった!? ～阪和線の知られざる歴史～
		私たちフィールドワーク部の鉄道班は主に関西の鉄道について、歴史班は関西の史跡や歴史に興味を持って巡検を重ね研究をしています。今回は堺の南北を走り大阪と和歌山を結ぶJR阪和線に焦点を当てて調べています。その中で、JR阪和線には阪和電鉄という私鉄から国鉄になった歴史があったこと、また、戦前は南海電鉄との集客合戦を繰り広げスピードを競う中で阪和線には「定期運行の列車として日本一速い列車」が走っていたことを知りました。そして「日本一早い列車」であったのは欧米から輸入された技術や部品を採用していたことによることになってきました。今回の研究では、さまざまな変遷を経て現在の姿になった阪和線の知られざる歴史、技術面での諸外国との関わりについて、フィールドワークを交えて調べていこうと思います。			
15:20 ~ 15:40	7	帝塚山学院高等学校	歴史研究部 「はらのJK てづかムシ」	5	阿佐井野宗瑞と医療
		このテーマを選んだ理由は、コロナウイルスなどの感染症が話題になっているので、昔の医療はどうだったか気になったからです。研究する内容は、堺出身の阿佐井野宗瑞（あさいのそうすい）が「医書大全」を出版する前の日本の医療と、阿佐井野宗瑞が「医書大全」を出版したことで、医療がどのように変わっていったのかを、中国の医療と比べながら、「ハラノムシ」も参考にしながら調べていきたいと思っています。そして江戸時代にオランダからやってきた医療も調べたいと思っています。			
15:40 ~ 15:50	休憩及び準備_10分				
15:50 ~ 16:10	8	大阪府立高津高等学校	地歴研究部+有志	4	大和川の歴史と付け替え運動
		大和川は交通路として重要な河川でした。飛鳥時代、遣隋使の帰国とともに来た裴世清の記録などからも、大和川を舟で行き交い、大陸の文化が取り入れられていたことがうかがえます。大和川は私たちの暮らしや文化、産業などと深く結びついてきました。大和橋は、1704年（宝永元年）に大和川付け替えの完了に先立って作られた橋で、大坂と堺を結ぶという点で重要な交通路であったようです。大和川の歴史と、江戸時代の付け替え運動を中心となって進めた中基兵衛について調べます。そして日本は、河川の洪水や塩害になやむ海外の国々のために河川の付け替えや端の架け替え工事への協力を行っています。そこで日本と海外の河川の違いと日本の河川や橋の付け替え技術の高さや海外での技術協力などに尽力した企業や人物の功績についても辿りたいと思います。			
16:10 ~ 16:30	9	桃山学院高等学校	「安土・桃山学院時代」	5	南蛮漆器
		私たちはその美しさに魅せられて、南蛮漆器とヨーロッパ（事務局注:以下「欧州」）の繋がりについて調べることにした。教科書では詳述されていないが、近代初期の堺と世界を繋ぐ注目すべき文化である。南蛮漆器は16～17世紀頃に登場し、国内だけでなく南蛮貿易によって欧州にも輸出され、司祭者たちから注文を受けた日本の職人たちによってキリスト教の儀式での祭具などとして作られた可能性がある。そこで私たちは、南蛮漆器と他の漆器（琉球漆器や根来塗りなど）との違いや世界との繋がり、南蛮貿易において欧州の人々に南蛮漆器が受け入れられた理由を追求しようと考えている。特に黒地の南蛮漆器が欧州の人々の間で広まったのは、キリスト教における黒などの色の持つ意味が関係しているのではないかと推測している。また、日本及び堺から欧州へどのような時期に輸出され、どのようなルートで、どのような人達に好まれたのかを追求すれば、堺と世界の繋がりがより明確にできると考えている			
16:30 ~ 16:50	10	大阪緑涼高等学校	歴史研究部	6	千利休の切腹の謎
		千利休は、戦国時代から安土桃山時代にかけての商人、茶人である。わび茶の完成者として知られ、茶聖とも称せられる。戦国時代では、各地方で戦が絶えず、戦に負けた当主や身分の高いものに逆らった武士は、切腹を命じられることがあった。しかし、よほど重い罪を犯さない限り、武士以外の身分の人間が、切腹させられることはなかった。ところが、文禄4年（1595年）に突然切腹を命じられた。利休の切腹には、さまざまな理由が考えられているが、真相は不明である。本研究では、千利休の切腹の理由について、文献調査や史料分析などを行い、その真相に迫りたいと考えている。また、利休の切腹が茶の湯や日本の文化にどのような影響を与えたかについても考察したいと考えている。			
16:50 ~ 17:10	休憩及び審査_20分				
17:10 ~ 17:20	審査結果発表、秋田審査委員長講評、須藤館長閉会のご挨拶_10分				
参加生徒総数				57	人

*観覧される学校関係者・保護者・一般の方々による動画・写真撮影は、固定席よりも後方のスペースでお願いします。